

第6回 研修報告

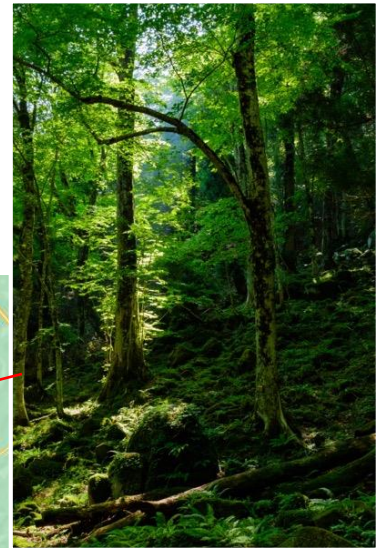
2022年11月10日(木)～11日(金)

歴史ある町並みと地域の森を歩く

紅殻の町並み「吹屋」と「若杉天然林」

歴史的に重要な建造物が失われつつある今
伝統的建造物群と地域の森林資源を研修します

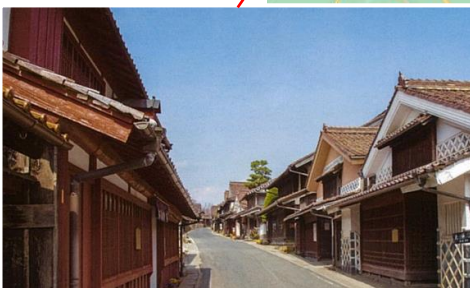
県指定重要文化財 旧吹屋小学校



若杉天然林



吹屋の街並み



あわくら会館



江戸時代、吹屋地区は銅鉾山として栄え、標高500mの山中にあります。閉山と共に衰退しますが、銅の製造過程で産出する酸化鉄を活かし、紅色染料の「ベンガラ」を製造しました。その品質が極めて良質であった為、京都を中心に建築物の木部塗装や陶磁器・漆器に使われ、人気があったようです。

当時の街並みは今も残り、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されました。(文化庁 1977年)

今回は、この街並みと、建築に使われた木材を供給した、地域の森林を研修します。

岡山県高梁市にある伝統的建築物群「吹屋」と、西粟倉村の「若杉天然林」を訪ね、地域に木材を供給した森林を研修しました。西粟倉村役場は地域の木材を90%以上使用しました。今でも地域の森林は、木材を供給し続けています。



・旧吹屋小学校

1873年に開校し、2012年まで現役の小学校として利用されました。その後、7年の歳月を掛けて保存修理工事が行われ、岡山県の重要文化財に指定されています。当日は、この小学校を卒業したガイドさんによる、熱の入った説明を聞くことができました。



・旧吹屋小学校内部（六間廊下）

職員室や教室とつながる「廊下」。いつも生徒が雑巾がけをして、大切にしてきたそうです。ガイドさんがトラス構造について、大橋先生に説明中。



・吹屋の町並み（ジャパンレッド発祥の地）

江戸時代に銅鉾山で栄えた町は、その後の閉山と共に衰退します。残った人達は副産物の酸化鉄を使って、良質な弁柄を生産することで、町は活気を取り戻しました。当時の町並みは今も残っており、重要伝統的建造物群として注目を集めています。



・若杉天然林（自然探求路）

森林浴の森、日本百選に選ばれた3kmの散策路を歩きます。岡山大学から、中村先生にも参加頂きました。多彩な樹種と巨木を見ることが出来ますが、意外とハード。



・西粟倉村役場（あわくら会館）

環境モデル都市に採択された西粟倉村は、他の2町（下川町・栲原町）と同様に森林資源に注目します。役場の建替えに伴い、村民交流の場として「あわくら会館」を併設しました。使用した木材の97%が村産材とのこと。若者の移住にも注力し、社会増減がプラスになったそうです。